

授業マイスター研修講座(小学校)

授業マイスター 瑞穂小学校 主幹教諭 太田 裕子

担当指導主事：塩家 崇生

キーワード：授業力向上・授業デザイン・国語科教育

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
9月5日（木）	授業者：瑞穂小学校 太田 裕子 主幹教諭 対談者：笹原小学校 林 美幸 主幹教諭	瑞穂小学校 3年3組教室 ・授業公開 ・対談と協議	・「詩を楽しもうⅡ（第3学年）」 ・「子どもたちにつけたい力とそのため にしくみたいこと」 ～この時期に考えてみよう～

2 主な内容

(1) 授業：「詩を楽しもうⅡ(第3学年)」

「わたしと小鳥とすずと（金子みすゞ）」「山のでっぺん（岸田衿子）」の2編を扱って学習を進める。

① 主な単元目標として

ア 連相互の関係に着目しながら、叙述をもとに内容を捉えるとともに自分の考えを持つことができる。（読むこと）

イ 大事な言葉や文に注目しながら音読の仕方を考えることができる。（読むこと）を主な目標として授業を構成した。

1時間目・2時間目でそれぞれの詩を読みあつた。「わたしと小鳥とすずと」では、“みんなちがって、みんないい”という言葉、優しく温かく感じ、“みんな”が繰り返されることで、強さも読み手として感じながら読んできた。“それからわたし、”という言葉の順からも、私という存在を認める心地よさを子ども自身が魅力の一つとして味わった。「やまのでっぺん」では、各連の叙述からイメージを広げ読んだ。“やっぱり でかけてみよう”という作者の考えの主張や“でかけたり、さわったり”といった行動から子どもたちが自分自身を重ね、共感しながら読むことができた。

本時では、事前にみんなで読んだ詩への思いを大切にして音読に生かせるよう、音読計画を立てた。班で読み合いながら、計画を立て、考えを深めていった。どちらかに絞ることができない班は、無理の一つにしないで自分の取り組みたい詩に取り組んだ。

② 1年を通したカリキュラム設定の中で本時を考える

詩教材は4月、9月、1月と3回にわたって扱われることになっている。3つの時期に分散された教材をひとつの大単元のようにして単元計画をたてるよさを考えた。

本時では2つの詩を比べながら、それぞれのよさ、値打ちを読み手として子ども自身がとらえて音読表現した。3学期の自分の考えにあった詩集をつくろうという取り組みへの先がかりともなった。



(2) 対談・協議：「子どもたちにつけたい力とそのためによくみたいこと
～この時期に考えてみよう～」

① 授業者からの提案として（国語科 - 詩・物語 - において）

ア 本時までにつけておきたい力について

イ 本時でつけたい力

ウ これからつけたい力

エ 学ぶためにつけたい力

授業者が見通しをもって、どんな言葉の力が、考え方の力が必要かをみきわめておく。

(ア) 聞く・話す・書く力を、年間通して学年で共有しながら、子どもに伝え続ける。

例えば 1学期・・・「聞くきくてんとうむし」という合言葉と共に、教室掲示

2学期・・・「話すぞう（象）」という合言葉と共に、教室掲示

3学期・・・「書くガリ君」という合言葉と共に、教室掲示

(イ) 話し合いと個人の力をつけるバランスをとることの必要性

② 伊丹市立笹原小学校 林主幹教諭からの提案（算数システムの視点から）

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 音読と読みとを行き来させることで、より子ども自身の読みや考えを深めることができた。
- ② 中学年として初めての1人称の詩であるが、2つの詩を比べたことで、分かりやすくなり、読みを深める手掛かりとなった。
- ③ 対談・協議で授業づくりのコンセプトを伝えることができ、年間を通して、また、6年生を見通してカリキュラムを組むことの大切さを共有できた。
- ④ 自校に持ち帰って伝達してくれるという参加者もあり、情報共有の大切さも実感できた。

(2) 課題

- ① 単発で終わらない真の学力の構造化。
- ② 学習形態の多様化と個の力をつける学びの関係の明確化。